

## 八千代ゆかりの文学者たち

### File4. マオアキラ (1942 ~ )

#### 略 歴

1942 年愛媛県生まれ。幼稚園教諭を経て、松山市で「やの れいこ」の名で、劇団ロス・デ・バラスを主宰した。その後、全国児童文学同人誌連絡会の機関誌『季節風』の同人となり、同誌に「しろじょうさんの八月」「うんち」などを発表したほか、後藤竜二、丘修三らとともに一時期、同誌の編集委員として、「新しい児童文学の創造を志す全国の仲間たちと共にひろく交流し、文学的な深まり合いと向上」に努めた。

1991 年に初出版した、戦争によって心に深手を負って復員してきた父と娘の再生を描いた『風のむらから さわこ』が反響を呼び、急きょ『季節風』30 号で小特集が組まれた。また自伝的色彩が濃い『光る夏ーたつひこ』が第 41 回産経出版文化賞に推薦されたほか、南アフリカのアパルトヘイト(人種隔離政策)を描いた絵本『サラフィナ!』、ガンと闘いながら難病患者の生を描き続けて亡くなったNHKディレクターを描いたノンフィクション『命燃やす日々』など、戦争、環境、人権、生き物と人との共生をテーマにした作品が多い。

また劇団 MAOMAO ジャングルの代表となり、2003 年には一匹の捨てられた子猫との出会いという自身の体験をもとに、生命の尊さや個の尊重、自然への畏敬をテーマとしたミュージカル「森のおく」の作・演出・制作、作詞等を手掛けた。

ペンネームの「マオ」は、中国語で猫の意。カタカナ表記のほか、「未和アキラ」の表記もあり。

#### 八千代町との関係

八千代町に在住歴あり。平成 4 年 5~8 月に八千代町中央公民館において、「子どもの本を読む講座」の講師として、児童文学の普及、振興を図るなど、子ども本を通したまちづくりや図書館運営に影響を与えた。

## 主な作品

作 品 名	出 版 社	刊行年
風のむらから さわこ	汐文社	1991
サラフィナ！	汐文社	1992
ぼくらの団地におばけ鳥がやってきた	汐文社	1993
命燃やす日々	文溪堂	1993
光る夏ーたつひこ	童心社	1993
かずみのとびら	汐文社	1995
紙芝居 障害者といっしょ5 ユウレイなんかじゃない(老人性痴呆とは)	汐文社	1995
ムシの方舟	原生林	1995
しろじょうさんの八月	創風社出版	1996
エンマ大王のハンカチーフ	出版工房原生林	1996
さくらのもりのものがたり	小学館	1997
鳥の神話	出版工房原生林	2002
けいかいくいき ぶたまるさんがいく	創風社出版	2013

※ 作品リストの中には、今日の観点から見ると差別的な表現ととられかねない箇所がありますが、作品発表が新しい名称に統一される前であること、また作者の意図は差別を助長するものではないと判断し、変更は行わず発表当時のままの表記としました。